

1 単元名 買い物ごっこをしよう

2 単元について

(1) 単元の概要

学習指導要領では次のような位置づけになっている。

【特別支援学校（知的障害）小学部 学習指導要領「生活科」第二段階】

ク 金銭の扱い

(ア) 身近な生活の中で、教師に援助を求めながら買い物をし、金銭の大切さに気付くこと。

(イ) 金銭の扱い方などを知ること。

【特別支援学校 小学部 自立活動】

6 コミュニケーション

(1) コミュニケーションの基礎的能力に関すること。

(2) 言語の受容と表出に関すること。

(3) 言語の形成と活用に関すること。

(4) コミュニケーションの手段と選択と活用に関すること。

(5) 状況に応じたコミュニケーションに関すること。

本単元は、「買い物」という日常生活に結び付く具体的な場面を想定している。お金の価値や、スーパーマーケットやコンビニなどでの買い物の仕組みを、お金の学習やごっこ遊びを通して理解するという活動である。さらに「買い物」という必然的に人との関わりが生じる場の設定をすることで、コミュニケーション力を身につけてほしい。

単元を通して、児童の目指す姿は次の二つである。一つ目は授業実践前よりも対話する相手を意識して豊かな表情や言語が表出されること、二つ目は学んだことを児童が一般化できる場を設け、人と関わりたいという意欲が湧くことである。

さらに、これらを達成するために三つの手立てを考えている。一つ目に教師が主となってソーシャルスキルトレーニングを取り入れながら会話の型を学ばせるということである。子供たち同士のコミュニケーションや授業中の発表の様子を見てみると、的を得ていない内容を話していたり、考えている様子はあるものの何と言って伝えていいのかが分からないのではないかと思われたりする場面が日頃から見られる。その場に適した答えと一緒に考えたり、その子なりの表現をくみ取って答えの選択肢を与えたりすることで、人とのやり取りを身に付けている。今回も、様々な場面を想定しながら例文を示したり、ロールプレイングの中でコミュニケーション力を身に付けたりさせたい。

二つ目は毎時間の終わりに振り返り活動をすることで、学習したことが身につけているかを確認しながら達成感をしっかりと味わわせるということである。単元の最初には子供たちと一緒に授業計画を立てて見通しをもたせ、意欲をもたせてから学習を進めることとする。また、毎時間の授業の始めと終わりに、今日のめあてと振り返りを丁寧に行うことで、何を学習し、何が身についたかを子供たちと一緒に確認することで達成感をしっかりと味わわせたい。

三つ目は一人一人の関心意欲を大切にしながら、主体的な学びをさせるということである。教師がねらいとすることを軸にしながらも、子供たちが満足できるように一人一人の意見を取り入れ、全員が第2次の買い物ごっこまで意欲が継続できるように手立てを講じていきたい。買い物ごっこでは、決められた金額内で買い物ができるようにする子と、金額の代わりに色のついたシールを見ながら買い物をする子の2パターンを設定することで、一人一人の発達段階を踏まえた主体的な学習を実施していくこととする。

(2) 単元の目標

- ・買い物ごっこを通して買い物の仕組みを知り、買い物の仕方を身に付けることができる。

- ・お金を用いて10や100のまとまりで金額を数え、支払いやおつりの受け渡しができる。
- ・店員役やお客さん役をし、様々な立場を経験することでコミュニケーションを行う力を身に付けることができる。

(3) 児童の実態

ゆりのき学級1・2組は1年生3名(1名は自閉症・情緒学級在籍)、2年生3名、3年生1名、4年生1名、6年生2名の合計10名の知的障害特別支援学級である。この10名の児童のうち、普段から交流学級にて教科の学習を行っている児童が5名、朝の会のみの交流が1名と、半分の児童は日頃から通常の学級の子供たちとの関わりがある。その他4名の児童も、学習内容によっては生活科や総合的な学習などを中心に交流学习に参加しており、教師や介助員と一緒に集団の中に入って活動する機会を経験している。

本学級の児童はほとんどが集団行動におけるスキルが定着し、集団への参加はできるものの、一人一人に視点を当てると自分の気持ちを相手に伝えるなどの言語表現が未熟な児童がほとんどである。例えば大人とは対話ができるが同年代の友達との対話が苦手な子、一方的な会話しかできない子、自分の思いを言語化することが難しいためにトラブルが多い子など、コミュニケーション面での課題が多く挙げられる。

1学期に行った買い物ごっこでは、全ての商品が同じ値段で、一つの店から一つの商品を買うという経験をした。今回の学習では、一人一人の発達段階を踏まえながら、決められた金額内で好きな物を購入したり、値段の代わりにシールの色を見ながら買い物をしたりと、前回よりももう一段階レベルを上げた学習を実施していきたいと考えた。

3 研究仮説との関連

仮説1 「目的意識」をもたせる単元構成や、習得した知識・技能を生かす学習活動を積み重ねることで主体的に活動し、学んだことを活用する力を高めることができる。

③ 活動のゴールを示し、そこまでの過程を明確化や視覚化する。

「買い物」という、生活に結びつく具体的な場面を想定し、必然的に人との関わりが生じる場の設定をすることで、どれだけコミュニケーションを行う力を身につけることができるのかを明らかにする。また、主体的に活動するために、授業計画を一緒に考えたり、お店の準備を自分たちで行ったりすることを大切にす。また、授業の始めには毎時間のめあてをしっかりと確認して目的意識を持たせる。授業の終わりには振り返りカードを使い、毎時間の終わりに書かせたものを積み重ねることで、自らの成長を視覚化できるようにする。

仮説2 友達と協力する場を工夫することで、個に応じたコミュニケーション能力を高めることができる。

④ グループ活動の中で、それぞれがコミュニケーションしやすい手段を用いながら活動できるようにする。

お店について考えたり準備したりする場面では、同じグループの友達と協力しながら準備を進めることで自ずとコミュニケーションを取る場面を作っていく。買い物ごっこでは、店員役と客役のそれぞれの立場に立ったやりとりを経験できるように構成する。また、同じ学級で買い物について一緒に学んできた友達だけではなく情緒学級の友達を招待することで、コミュニケーションの幅を広げていきたい。

4 指導計画 (全18時間扱い)

次	時	学習のねらい	児童の学習内容と評価
1	1	・身近にあるスーパーマーケットやコンビニでの買い物の経験を振り返ることで、どんなところなのか、誰がどんな物を買っているのかを知る。	・地域にある、買い物ができる場所を挙げ、それらについて知っていることについて話し合う。 評 普段の生活を振り返り、買い物や店について興味関心をもっている。 【態】(発表・行動観察)

2 3	<ul style="list-style-type: none"> 自分の買い物の経験や家の人へのインタビューを通して、より楽しく、より魅力的な店を作れるようにする。 買い物学習に向けての計画を立て、見通しをもつことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 買い物ごっこをすることを覚える。 家の人にインタビューしたり、自分の経験を友達に話したりしながら、自分たちの「ゆりのきマーケット」はどんな店にしたいのかを話し合う。 <p>評 計画を立て、単元の見通しをもっている。 【態】(発表・行動観察)</p>
4 5	<ul style="list-style-type: none"> 買い物学習をするためにお金の種類や価値について学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> 理解度別に、小グループでお金の学習をする。 <p>A：店員役、客役に分かれてお金の受け渡しの練習をする。お金の種類が分かり、電卓を利用して金額を計算することができる。</p> <p>評 お金の種類を理解し、値段に合った硬貨を出したり、おつりを渡したりしている。 【知】(行動観察・プリント)</p> <p>B：お金の受け渡しを練習する。お金には種類があることを知り、大きめの金額を出すとおつりがもらえることを理解する。おつりやレシートを財布の中に入れて生活に結び付く内容も練習する。</p> <p>評 教師と一緒にお金を相手に渡したり貰ったりして金銭の受け渡しをしている。 【知】(行動観察・プリント)</p> <ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて「言葉と数」の時間にもお金の学習を取り上げ、一人一人の理解度を少しでも高められるようにする。
2 6 7	<ul style="list-style-type: none"> 買い物ごっこで、どんな店を開きたいかを考え、グループを作る。 	<ul style="list-style-type: none"> 思いつかなかった場合を想定し、いくつか店の候補をあらかじめ考えておく。 買い物ごっこをするためには、品物をたくさん用意できるような店にすることを考えた上で何が良いのかを考える。 いくつかの候補の中から、自分でやってみたい店を選ぶ。人数が偏ってしまった場合には調整する。 <p>評 自分がやりたい店を選び、みんなの前で話すことができる。【態】(発表・プリント)</p>
8 9 10 11 12 13	<ul style="list-style-type: none"> 商品や看板、買い物かごなど、買い物ごっこに必要な物をみんなで協力して準備する。 	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人のアイデアを大切にしながら、全員が協力して準備する。 グループごとにリーダーを決め、リーダーを中心に相談しながら作業を進める。 商品や看板づくりでは密にならないようにいくつかの教室に分かれて活動するなど、少人数グループに分かれ、担任や介助員がグループごとに付いて一緒に準備をする。 <p>評 友達と協力して、準備を進めることができる。 【態】(行動観察・プリント)</p>
⑭ 本 時	<ul style="list-style-type: none"> 買い物ごっこをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 店員役と客役の2つができるようにグループ分けをして2回に分けて買い物ごっこを実施し、それぞれの役割を経験する。 各コーナーで好きな商品を選び、最後にレジへ持っていく、支払いをする。 自分が買った商品を友達と見せ合う。 <p>評 店員や客になりきり、役割に応じた言葉を相手にかけている。</p>

		<p>【態】(行動観察)</p> <p>評 品物を選び、値段に合った硬貨を店員に渡している。</p> <p>【知】(行動観察)</p>
15 16	<ul style="list-style-type: none"> ・情緒学級の友達を招待し、買い物ごっこをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・店員役として、お客さんにどういう対応をすればよいのかを確認する。 ・自分達が作ったものを友達に買ってもらうことの喜びを味わう。 ・客は各コーナーで支払いをし、各店舗で会計をすることで、金銭のやりとりを経験する。 <p>評 店員役になりきり、適切な言葉を相手にかけている。</p> <p>【態】(行動観察)</p>
17 18	<ul style="list-style-type: none"> ・買い物ごっこを通して、自分や友達のがんばりを振り返り、できるようになったことなどを出し合う。 ・写真にコメントを付けたリ、イラストを描いたりして模造紙にまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・買い物ごっこの様子を写真で振り返り、模造紙にまとめ、廊下に掲示することで保護者や学校内の友達、先生に知ってもらえるようにする。 <p>評 振り返りカードを元にしながら、これまでのがんばりをグループごとに文やイラストにまとめている。</p> <p>【思】(作品)</p>

5 本時の指導 (14/18)

(1) 目標

- ・客役や店員役になりきり、役割に応じた言葉を相手にかけることができる。
- ・値段に合った硬貨を相手に渡すことができる。

(2) 仮説との関連

仮説2 友達と協力する場を工夫することで、個に応じたコミュニケーション能力を高めることができるだろう。

④ グループ活動の中で、それぞれがコミュニケーションしやすい手段を用いながら活動できるようにする。

本時はこれまでの準備期間をふまえて、買い物ごっこをする時間である。客役や店員役になりきり、それぞれの立場でコミュニケーションを図る。自分達で心をこめて作った作品をお客さんに売ることや、店員としての立場では「いらっしゃいませ」などの接客する時の言葉に加え、笑顔で明るく相手に接することで相手が気持ちよく買い物ができるということを前時まで確認して本時に臨むこととする。客としては、普段の生活の中でも、店員に対して感謝の気持ちをもって買い物ができるように、買い物ごっこでも相手に対する態度を大切に学習を進める。買い物ごっこの中で、良い手本となるような態度で活動できている児童を取り上げて、みんなで共有できる場を設けられたらよいと考えている。

(3) 展開

◎印は、仮説との関連
評(評価) 手(手立て)

学習内容	授業の実際と考察 実際の児童の様子	時配 ()は実際にかかった時間
1 指導計画表を見ながら今日のめあてを確認する。 なかよく、マナーをまもってかいものごっこをしよう。	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習内容を振り返りながら買い物学習を確認した。 ・買い物におけるマナーとはどんなことなのかを児童に考えさせた。 	5 (3)

<p>2 お客さん、店員それぞれの立場になったときにどんな言葉を言えそうか考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童からでた言葉を掲示し、言葉でやりとりをしながら活動することができた。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・いらっしゃいませ ・ようこそ ・こんにちは ・いくらですか。 ・また来ますね。 </div>	<p>3 (5)</p>
<p>3 グループを4つに分け、レジ係、店番、お客さん役をローテーションで行うことを確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人が最初に何をやるのかが分かっているかを確認するために必要に応じて個別に声をかけた。 	<p>2 (2)</p>
<p>4 買い物ごっこをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・品物を選んで買い物かごへ商品を入れ、レジへ商品を持っていく。 ・レジ担当の児童は、金銭のやりとりはトレーを使って行う。 ・客役も店員役も、相手を思いやるような優しい話し方で接することができる。 	<p>評 店員や客になりきり、役割に応じた言葉を相手にかけている。</p> <p>【態】(行動観察)</p> <p>手 個別に支援が必要な児童には、言うべき言葉を例示したり、教師と一緒に活動したりすることで参加できるようにした。</p> <p>評 品物を選び、値段に合った硬貨を店員に渡すことができる。</p> <p>【知】(行動観察)</p> <p>手 硬貨を選ぶことが難しい児童は教師や介助員と一緒に選び、店員に渡すことができるようにした。</p> <p>◎これまで学習したことを基に、自分達のお店の商品を売ったり買ったりした。</p>	<p>3 0 (3 0)</p>



5 振り返りをする。

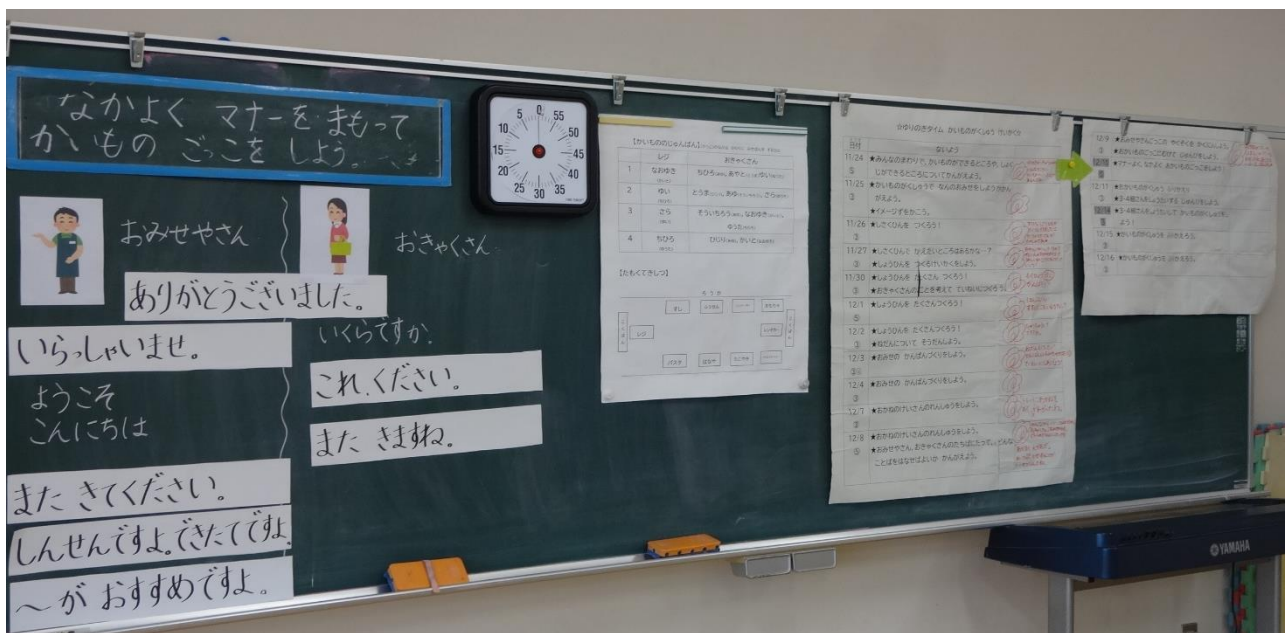


・買い物ごっこをしてみた感想を話し合った。

5
(5)

- ・お寿司屋さんのお寿司を回すことができておもしろかった。
- ・色々な種類の商品を買うことができて楽しかった。

(4) 板書



6 本単元の成果 (○) と課題 (●)

仮説1 「目的意識」をもたせる単元構成や、習得した知識・技能を生かす学習活動を積み重ねることで主体的に活動し、学んだことを活用する力を高めることができる。

- ③ 活動のゴールを示し、そこまでの過程を明確化や視覚化する。
- 学習計画表を常に教室内に掲示していたことで、児童の間から「今日は～をやる時間だね」という会話が出たり、「商品を作る時間はあと何時間あるの?」という質問が出たりして、見通しをもって活動する姿が見られた。
- 商品作りや看板作りなどの準備をしていた期間は、振り返りカードを書く時間を必ず設けた。その日の振り返りに加えて、次回のめあてを立てられた児童もいた。
- 文字を書くことや発話が難しい児童の、振り返り活動が課題である。今回は、一緒に活動した担任や介助員と書く内容を決めた。それ以外の方法にはどんなものがあるのか、情報を集めたり考えたりし、来年度の研究に生かしていきたい。

仮説2 友達と協力する場を工夫することで、個に応じたコミュニケーション能力を高めることができる。

- ④ グループ活動の中で、それぞれがコミュニケーションしやすい手段を用いながら活動できるようにする。
- 自分のお店の準備をする時には、同じグループの友達に今日のめあてを伝えてから学習を進めるようにした。活動中は自分の動きに集中してしまうため、やりとりが少なかったが、学習中も他の児童の作業が見えるように席の配置を工夫した。
- 買い物ごっこでは、店員役と客役のそれぞれの立場に立ったやりとりを経験できるようにグループを構成した。また、同じ学級で買い物について一緒に学んできた友達だけではなく、情緒学級の友達を招待することで、自分の商品について詳しく紹介したり、おすすめの商品について話したりする機会を設けることができた。
- 本物のお金を使用することで、お金の大切さや扱い方を体験することができた。普段の生活ではクレジットカードでの買い物しか見ていない児童もいて、おつりの計算等お金の学習にも繋がった。時間が十分にとれていない児童もいるが、日常生活に繋がられる生きた教材となった。
- 普段では、あまりコミュニケーションをとっていない友達との交流が店員役・客役を通してとることができた。短い会話ではあるが、楽しみながら交流する場がとれた。
- どのようにコミュニケーションをとったらよいかを児童の実態に応じて、指導計画を適宜考えていったことでお金のやりとりや、店員役と客役の言葉がけ等を通してコミュニケーション能力を高める題材となったように思う。
- 評価の点で、本時では動きがある活動の為すべてを把握しきれなかった。評価の観点を意識して、児童に向き合うことができるよう心がけたい。